



活動報告書
2017–2020
annual
report



地域・教育魅力化
プラットフォーム
Platform for Sustainable Education and Community

2017年3月に弊団体を立ち上げ、3年という節目を迎える、4年目の事業に取り組んでおります。こうして皆様にご報告をお伝えすることができました。これまで多大なご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。

未来を創る「意志ある若者」が溢れる社会に向けて、メンバー一同これからも邁進してまいります。



note | 地域・教育魅力化プラットフォーム

本誌に掲載したインター観察記事は
WEB版を公開しています。



地域・教育魅力化
プラットフォーム
Platform for Sustainable Education and Community

Supported by  THE NIPPON
FOUNDATION

一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム
〒690-0886 島根県松江市母衣町83番地5 母衣ビル3階
TEL.0852-61-8866 FAX.0852-61-8867
MAIL: info@c-platform.or.jp
<http://c-platform.or.jp/>

 地域・教育魅力化プラットフォーム

 <https://www.facebook.com/c.platform.or.jp>
 @platform_sec

[発行] 2020年12月

全国へ広がる魅力化

島根県海士町から始まった「魅力化」が、
全国へと広がっている。

「スケールアウト」を目指してきた
地域・教育魅力化プラットフォームの
3年間の取り組みを、

海士町の隠岐國學習センター長、
豊田庄吾さんはどう見ているのだろうか。

文化へ

学び合う場の 存在大きかった

「魅力化」は、それぞれの現場で教育を磨く取り組みです。島前で始まり、島根県、全国へと広がっているということは、「教育を磨く」という思いを持った人が各地に増えているということ。短期間にここまで広がるには、魅力化PF*の存在が欠かせなかつたと思います。

まず、都道府県の枠を越えた高校へ通う「地域みらい留学」の参加校が全国68校にまで増えました。魅力化に取り組む学校が集まる場にもなっているし、何よりも、子どもたちにとって「地域で学ぶ」という新しい選択肢ができた。それぞれの学校で取り組むだけでは難しかつたと思います。

*一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム

もう一つは、文字通り「プラットフォーム」として機能したということです。「魅力化をやりたい」という人に「仲間に入りませんか?」と呼び掛けることができるようになつた。それぞれの現場のあり方や課題を共有できる「共学共創の場」ができことで、広がりも加速しました。

魅力化に取り組んでいくと、明らかに教育がよくなります。高校生が生き生きとしてくるんです。地域で活動をして、さまざまな人と関わり、すごくいい表情で自分の思いを語るようになる。そういう場面に全国各地で出会うようになります。

「やり方」ではなく「文化」に文化にしていくためには?

豊田庄吾



豊田庄吾
隠岐國學習センター長

もちろん、人の行動や大事にしていること、学校の文化が変わることは簡単ではありません。魅力化が機能するためには最も重要なことは、「魅力化の本質」をその地域の多くの人が理解していることだと思っています。

人は「答え」を急ぎがちですが、「こうすればうまくいく」という唯一解はありません。そうではなくて、「自分の地域や学校にとって、良い教育とは何なのか」ということを、関係者が膝を突き合わせて対話して、実践して、探究し続けるということ。*“How to do”(やり方)*ではなく、*“How to be”(あり方)*。この本質をもっと伝えていきたいです。その地域の文化になれば、人が替わって

魅力化が広がり、日本の教育を変えるまでになるには、変化が自然に生まれる「生態系」が必要だという思いで取り組んできました。一定の成果はありました

卒業生が、それぞれにやつてることをオンラインで発表して、話し合つています。安心安全な場があると、自分をさらけ出せるし、「俺は応援しているよ」とか「一緒にやってみたい」とかを自然と言い出す仲間も出てくる。小さなものも含めて、挑戦する人がいて、周りに応援する人もいる。とにかく大人が輝いて、地域の担い手になつていって、この地域で暮らしていく幸せだということが、地域の未来につながっていく。次はこの文化をつくる仕組みづくりに取り組みたいと考えています。



[表紙写真 / P2-P5 取材・写真] 笹島 康仁

2018



2019



2020



●「地域みらい留学365」との重複校

徳島県
山口県
広島県
岡山県

島根県

鳥取県

和歌山県

奈良県

滋賀県

三重県

静岡県

福井県

山形県

岩手県

北海道

海城周大加加和隱隱津吉浜江矢島大飯三横大情日倉青串五村信昂飯川阿只川遊大住遠遠葛北海
部西防崎計計氣岐岐和賀田津上根田南刀田東報野吉谷本條岡樂學南根賀見口佐槌田野野巻海
高高大海高高閑水島高野高水高中高屋高科高農高古賀高等高等座等名高等高等等明高等高等峰高等
高等島星高等谷產前高等產等高等等高等高等高等高等高等高等高等高等高等高等高等高等高等高等
学校
神学校
山学校
北分校

地域みらい留学365

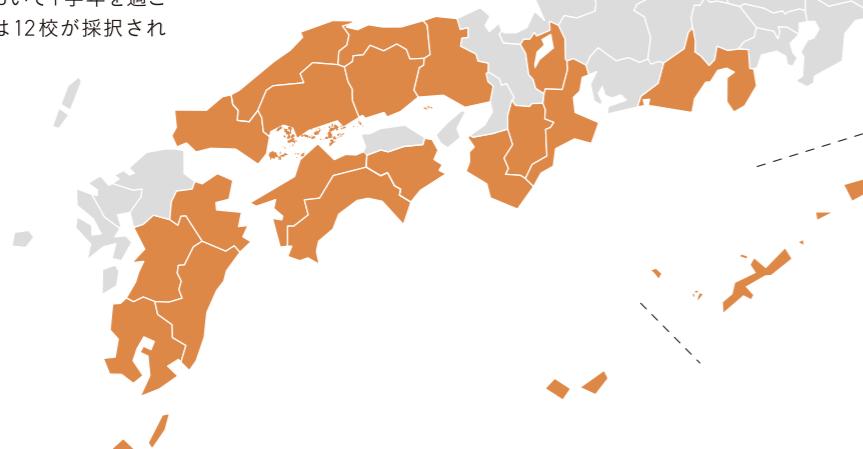
7道県12校

石川県
山形県
北海道
能小北北海道
登国高高道
高等斜里加川高
学校学校高等
高等高等高等
学校学校学校

詳しくはこちら



https://c-mirai.jp/mirai365/



25道県
68校

【地域みらい留学365】

内閣府と(一財)地域・教育魅力化プラットフォームが共同で2020年度から立ち上げる、「地域みらい留学365」。将来的な関係人口の創出・拡大を目指し、高等学校段階における地域留学を推進するため、全国から高校生が集まるような高等学校の魅力化に取り組む地方公共団体を支援する取組です。高校生が、在学する高等学校とは別の地域の高等学校において1学年を過ごします。2020年度は12校が採択されました。

地域みらい留学

24道県 63校 地域みらい留学



25道県
68校

目指したのは 「偶発的な出会い」

地域・教育魅力化プラットフォーム
地域みらい事業部 地域みらい留学担当 辻田 雄祐

2020年度の地域みらい留学フェスタは、新型コロナウイルスの影響でオンラインでの開催を余儀なくされた。結果的には、7~9月の6日間で延べ約3500名が参加し、「偶発的な出会い」も生まれたという。

フェスタは、参画校と地域みらい留学に興味のある人たちとをマッチングしていく重要なイベントです。オンラインのフェスタでは「呼び込み」があるので、参加者は、生徒や先生たちの雰囲気を感じながら、いろいろな学校の説明をのぞくことができました。

オンラインでもこの出会いを生もうと考えたのが、テーマ別説明会です。参画校を「島の学校」などいくつかの特徴でグループ分けし、1コマで3~4校のプレゼンを聞けるようにしました。参加者からは「より自分に合いそうな学校を見つけた」という声があり、参画校からは「これまで来なかつた地域の生徒となつながった」という声を聞きました。「自分に合った高校を全国の中から探し、選んでいく」という地域みらい留学の“裾野”が広がった感覚があります。

意外だったのは参画校からの反響が大きかったことです。「ほかの地域の取り組みや教員の思いを聞いてよかったです」と多くの学校関係者から聞きました。ほかの学校の発表を聞いてプレゼン資料を磨き直した学校もありました。フェスタが高校同士の共学共創の場になったことも新たに生まれた価値です。来年度以降も続けていきたいと思います。

2020年 「地域みらい留学フェスタ」

参加者の声

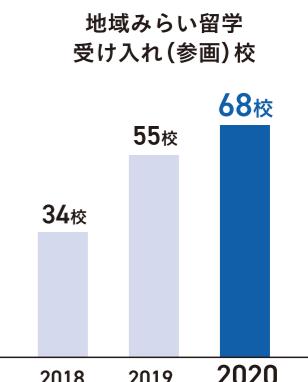
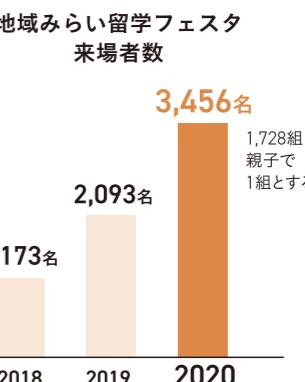
- 登壇してくださった教職員、在校生、卒業生と会話でき、会場説明会よりもむしろ距離が近く感じた。
- 先輩や先生達を通して、その学校の和やかな雰囲気が伝わってきた。

参画校の声

大崎海星高校の円光さん「うちも説明会に取り組んだことがあったが、知名度がまだ低く、そんなに生徒が集まらない。地域みらい留学のありがたみが分かる」と話していた。

「地域みらい留学」とは、北海道から沖縄まで日本の各地域にある魅力的な学校に入学し、充実した高校生活をおくること。豊かな自然、ここでしかできない体験、少人数教育など都道府県の枠を越えて挑戦できる取り組みです。

「地域みらい留学365」 全国に広がる



※2020年度は、オンライン開催で全国から参加。地域みらい留学と地域みらい留学365をあわせた数字です。

高校魅力化

評価システムと 「学びの土壌」

地域・教育魅力化プラットフォームは
地域みらい留学をはじめ

「高校を核とした持続可能な地域づくり」を

全国に広げるために活動しています。

高校魅力化は、生徒、学校、地域の変化に

どのようにつながっているのでしょうか？

(一財)地域・教育魅力化プラットフォーム
フォームと三菱UFJリサーチ&コンサルティングは、2017年より
協働で「高校魅力化評価システム」を開発しました。

このシステムは、高校魅力化が、

生徒の成長、意識・行動にどのような

影響を与えるのか、効果を可視化する

ことを目的にしています。そこで、

県単位で高校魅力化に取り組む島根

県等の自治体や各高校に協力しただ

き、「社会に開かれた教育課程」で

育てたい資質・能力要素を「主体性」

「協働性」「探究性」「社会性」の4つ

に集約し、アンケート調査による評価

の仕組みをつくりました。

この評価システムを検討するうえ

で非常に重要なのが、各地域、

学校の魅力度が子どもの成長につな

がるかどうかは、「何を学ぶか」だけ

でなく、「どのような環境で学ぶか」

といった、環境の豊かさに大きく左右

する奥田さんに話を聞いた。

奥田 麻依子
(おくだ・まいこ)

地域・教育魅力化プラットフォーム

R&D事業部
島根県教育庁教育魅力化支援員

岡山県倉敷市生まれ、島根県松江市在住。

京都の大学で心理学を学び、東京のIT

企業を経て、2012年に海士町へ移住。6年間、

島根県立隠岐島前高校のコーディネーター

を務めた後、2019年に魅力化PFのチーム

に加わった。現在は、県・国としての学校と

地域をつなぐ仕組みづくりに挑戦中。

事務局として関わったことです。

「今が国の制度を
変えるチャンス」

全国に広がる「魅力化」では、各地

で学校や地域行政をつなぐコーディ

ネーターの活躍が目立つ。しかし、

地域・教育魅力化プラットフォーム

(魅力化PF)の奥田麻依子さんは、

「コーディネーター」を制度で定着

させよう」という議論の中で、学校や

地域が変わっていくためには、「コ

ーディネーター」という「職種」よりも、

「コーディネーターする機能」が必要だ

だと感じるようになったといふ。

魅力化PFと島根県教委を行き来す

奥田さんに話を聞いた。

変化に必要なのは 「コーディネーターする 「機能」

全国に広がる「魅力化」では、各地

で学校や地域行政をつなぐコーディ

ネーターの活躍が目立つ。しかし、

地域・教育魅力化プラットフォーム

(魅力化PF)の奥田麻依子さんは、

「コーディネーター」を制度で定着

させよう」という議論の中で、学校や

地域が変わっていくためには、「コ

ーディネーター」という「職種」よりも、

「コーディネーターする機能」が必要だ

だと感じるようになったといふ。

魅力化PFと島根県教委を行き来す

奥田さんに話を聞いた。

コーディネーターの 役割を分類

取りまとめられた報告書「高校と地域をつなぐコーディネーター機能の充実に向けて一社会に開かれた教育課程と高校を核とした地方創生の実現を目指してー」(写真)には、こんな記述がある。

一高校と地域をつなぐコーディネーターは、現場の切実な必要感から、現在全国で140名を超えるほどまで広がってきてている。しかし、その配置や育成に関わる国の制度や仕組みが追いついていないため、現場では圧倒的な人材不足と場当たり的な配置・育成が日々広がっているという状況が見えてきた。(P10)ー

こうした課題を解決するための前提として、研究会では、これまであいまいだったコーディネーターの役割を「機能」として分類することを試みたという。

機能は「高校」「地域」「協働体制」の三つに分けられた。これらは報告書(P14)の中で、図4のようにまとめられている。



写真: 高校と地域をつなぐコーディネーター機能の充実に向けて一社会に開かれた教育課程と高校を核とした地方創生の実現を目指してー

「なぜ必要か」から 「どう進めるか」に

また、魅力化が広がっていく中で、コーディネーターの役割も変わってきているように思います。初期のコーディネーターは、まず学校や地域に對して、「魅力化が必要です」という機能を一人で背負う必要はなく、それを認識してもらうことから始めて、今は「必要だ」ということを認めていました。その後、「必要だ」という人が多かったと思いま

ます。でも、今は「必要だ」ということを前提にした上で、「どう進めていくべきか」と悩んでいる地域や学校

全国に広がる「魅力化」では、各地で学校や地域行政をつなぐコーディネーターの活躍が目立つ。しかし、地域・教育魅力化プラットフォーム(魅力化PF)の奥田麻依子さんは、「コーディネーター」を制度で定着させよう」という議論の中で、学校や地域が変わっていくためには、「コーディネーター」という「職種」よりも、「コーディネーターする機能」が必要だと感じるようになったといふ。

魅力化PFと島根県教委を行き来す

奥田さんに話を聞いた。

奥田 麻依子

(おくだ・まいこ)

地域・教育魅力化プラットフォーム

R&D事業部

島根県教育庁教育魅力化支援員

岡山県倉敷市生まれ、島根県松江市在住。京都の大学で心理学を学び、東京のIT企業を経て、2012年に海士町へ移住。6年間、島根県立隠岐島前高校のコーディネーターを務めた後、2019年に魅力化PFのチームに加わった。現在は、県・国としての学校と地域をつなぐ仕組みづくりに挑戦中。

事務局として関わったことです。

「今が国の制度を

変えるチャンス」

全国に広がる「魅力化」では、各地で学校や地域行政をつなぐコーディネーターの活躍が目立つ。しかし、地域・教育魅力化プラットフォーム(魅力化PF)の奥田麻依子さんは、「コーディネーター」を制度で定着させよう」という議論の中で、学校や地域が変わっていくためには、「コーディネーター」という「職種」よりも、「コーディネーターする機能」が必要だと感じるようになったといふ。

魅力化PFと島根県教委を行き来す

奥田さんに話を聞いた。

全国に広がる「魅力化」では、各地で学校や地域行政をつなぐコーディネーターの活躍が目立つ。しかし、地域・教育魅力化プラットフォーム(魅力化PF)の奥田麻依子さんは、「コーディネーター」を制度で定着させよう」という議論の中で、学校や地域が変わっていくためには、「コーディネーター」という「職種」よりも、「コーディネーターする機能」が必要だと感じるようになったといふ。

魅力化PFと島根県教委を行き来す

奥田さんに話を聞いた。

奥田 麻依子

(おくだ・まいこ)

地域・教育魅力化プラットフォーム

R&D事業部

島根県教育庁教育魅力化支援員

岡山県倉敷市生まれ、島根県松江市在住。京都の大学で心理学を学び、東京のIT企業を経て、2012年に海士町へ移住。6年間、島根県立隠岐島前高校のコーディネーターを務めた後、2019年に魅力化PFのチームに加わった。現在は、県・国としての学校と地域をつなぐ仕組みづくりに挑戦中。

事務局として関わったことです。

「今が国の制度を

変えるチャンス」

全国に広がる「魅力化」では、各地

で学校や地域行政をつなぐコーディ

ネーターの活躍が目立つ。しかし、

地域・教育魅力化プラットフォーム

(魅力化PF)の奥田麻依子さんは、「コーディネーター」を制度で定着

させよう」という議論の中で、学校や

地域が変わっていくためには、「コ

ーディネーター」という「職種」よりも、

「コーディネーターする機能」が必要だ

だと感じるようになったといふ。

魅力化PFと島根県教委を行き来す

奥田さんに話を聞いた。

奥田 麻依子

(おくだ・まいこ)

地域・教育魅力化プラットフォーム

R&D事業部

島根県教育庁教育魅力化支援員

岡山県倉敷市生まれ、島根県松江市在住。京都の大学で心理学を学び、東京のIT企業を経て、2012年に海士町へ移住。6年間、島根県立隠岐島前高校のコーディネーターを務めた後、2019年に魅力化PFのチームに加わった。現在は、県・国としての学校と地域をつなぐ仕組みづくりに挑戦中。

事務局として関わったことです。

「今が国の制度を

変えるチャンス」

全国に広がる「魅力化」では、各地

で学校や地域行政をつなぐコーディ

ネーターの活躍が目立つ。しかし、

地域・教育魅力化プラットフォーム

(魅力化PF)の奥田麻依子さんは、「コーディネーター」を制度で定着

させよう」という議論の中で、学校や

地域が変わっていくためには、「コ

ーディネーター」という「職種」よりも、

「コーディネーターする機能」が必要だ

だと感じるようになったといふ。

魅力化PFと島根県教委を行き来す

奥田さんに話を聞いた。

奥田 麻依子

(おくだ・まいこ)

地域・教育魅力化プラットフォーム

R&D事業部

島根県教育庁教育魅力化支援員

岡山県倉敷市生まれ、島根県松江市在住。京都の大学で心理学を学び、東京のIT企業を経て、2012年に海士町へ移住。6年間、島根県立隠岐島前高校のコーディネーターを務めた後、2019年に魅力化PFのチームに加わった。現在は、県・国としての学校と地域をつなぐ仕組みづくりに挑戦中。

事務局として関わったことです。

「今が国の制度を

変えるチャンス」

全国に広がる「魅力化」では、各地

で学校や地域行政をつなぐコーディ

ネーターの活躍が目立つ。しかし、

地域・教育魅力化プラットフォーム

(魅力化PF)の奥田麻依子さんは、「コーディネーター」を制度で定着

させよう」という議論の中で、学校や

地域が変わっていくためには、「コ

ーディネーター」という「職種」よりも、

「コーディネーターする機能」が必要だ

だと感じるようになったといふ。

魅力化PFと島根県教委を行き来す

高校時代に大切なのは、裾野を広げておくこと。

異質なものと対話する力は、世界を救う。

私は金融業界に長く身を置いてきました。そういう世界はものを作り出さない世界です。世界を変えるとしている人たちを世の中に知らしめないと困るという思いもありました。何もしないで自分のことだけを考えている人、言っていることは大きいのにやっているのは自分のことだけ。そういう世界にメスを入れたかったんです。

現在、一般的に敷居の高いクラシック音楽をもっと日常的に楽しめる場を作ろうということで活動しています。私自身、60歳を過ぎる頃まではクラシックにはまったく縁がなかつたのですが、あるとき、目の前で生演奏を聞き、まさに心が震える思いがしたんです。素晴らしいことに高揚すると同時に心が穏やかになります。そして、その場にいる人たち同士が心を通わせる。そんな体験を多くの人と共有したいと考え、64歳のとき、「100万人のクラシックライブ」の活動を始めました。この活動の目指すところは、「人を幸せにする」。とてもシンプルです。みんなが精神的に穏やかに暮らし、人と人とがつながって支え合う状態が、心地よい社会だと私は考えてます。私は自分が銘を受けていたクラシック音楽を通して貢献できたらと思っています。

人と人とがつながってお互いに支え合うというのが課題ですが、自分から何かやろうというのは、そもそも無理なんです。そんな傲慢なことを考えていたら社会は成り立ちませんし、誰かを巻き込まないことは大きなことは成し遂げられません。みんなが少しずつ誰かを支え、誰かに支えられながらつながりを増やしていくことで、アーバンのように緩やかにつながり広がる組織を作る。人とどれだけつながれるかがこれから時代

都会のように住んでいくと、その決められた枠の中で過ごすしかなくなり、子どもたちのなかに無力感が生まれてしまいます。いわば、窮屈な箱の中に閉じ込められたよつ状態です。一方、地方はその枠がゆるくて遊びの部分があるから、子どもは外に向けてエネルギーを発散させられるんです。この違いはとても大きいと思います。枠から飛び出して異質なものと出会うことはとても大事です。「地域みらい留学」の意義も、そこにあると私は考えていました。

学校ははともすれば子どもを管理しますが、本当はもっと子どもの意思を尊重すべきだし、放つておいた方がいい。私には子どもが3人いますが、親や大人が唯一できるのは、子どもを枠に押し込めないこと。子どもは思いのほかたくましく自分で道を拓いていくものです。人生のオーナーは自分自身なんだということに早いうちから気づいてほしいですし、そう考えて主体的に生きる人が増えれば、社会はもっとダイナミックになると思うんですね。

ソーシャルなことをやりたいという思いはあるけどアイデアがない…という人は少なくないと思いますが、まずは「地域みらい留学」のようになりますが、まずは「地域みらい留学」の「つ」です。そうして何かに携わっているうちに社会問題への意識が高まり、「次はこういうことをしたい」という意志が湧いてきたら、そのときはまた新しいことに挑戦したらいいんです。次の世代にしっかりとバトンを渡すために、できることをできるところまで共に精一杯やりましょう。



ビジョンパートナー
蓑田 秀策 様

一般財団法人100万人のクラシックライブ
代表理事

みずほコーポレート銀行で日本における為替オプション取引制度や、シンジケートローン市場の整備を行う。みずほコーポレート銀行を退社し、世界最大のプライベート・エクイティ・ファンド運営会社コールバーグ・クラビス・ローバーズに入社。2015年、若手音楽家のミニコンサートを主催する一般財団法人100万人のクラシックライブを設立し同代表理事に就任するとともに、一橋大学大学院商学研究科非常勤講師や、株式会社デジタルホールディングス取締役、株式会社東

ビジョンパートナー
岩井 瞳雄 様

日本たばこ産業(JT)株式会社
取締役副会長

1983年日本専売公社(現・日本たばこ産業)入社。経営企画部長、執行役員食品事業部長を歴任。海外たばこ事業子会社JTインターナショナル副社長、代表取締役社長たばこ事業本部長を経て、2020年3月に取締役副会長に就任。(社)日本アスペン研究所、(社)ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ、(社)久野塾などの理事を務める。

人間は、言葉を使ってコミュニケーションをとる動物です。対話をする、そして、対話をより問題を解決できる。ここに、人間らしさや人間にしかできない要素が集約していると考えて、います。価値観が異なる相手と、それぞれの立場を理解したうえで双方の矛盾を摺り合わせ、解決策を生み出す。それは、ディスカッションや、ディベートではなく、ダイアログ（対話）でしか成し遂げられないことです。例えば、対話のない文明はあり得ない、対話こそが文明をつくる、という考えに基づいて行われているのが、私も理事として携わっているアスペン・セミナーです。私たち人類には、専門家同士が分断した結果、原子爆弾という恐ろしい兵器を生み出してしまったという過去があります。アスペンは、そうした反省に基づき、立ち上がりました。

同様のことが、今、世界で起こっています。第二次世界大戦が終わってから70年以上が経ちますが、再び、当時のような世界的な対話をするか、ということです。今の日本は、分断の風潮を感じ、大変危惧して、います。人を攻撃しているだけでは、何も生まれません。大事なのは、違いのある者同士がいかに対話をするか、ということです。今の日本の政治を見て、いても、攻める人・守る人の構図ができてしまっていて、誰も対話をしようとしていない。「対話と分断」は、私の中でとても大きなテーマとなっています。

そんなとき、「地域みらい留学」の話を聞き、これはとてもいいなと思ったんです。都会で生まれ育った生徒がいわゆる田舎の学校に行って、例えば地元の漁師のおじちゃんとか商店のおばちゃんとか、今までに出会ったことがないような人、自分とは年齢も経験もまったく違う人と話をします。これは、言つ

でなければ「異質との対話」です。同質のなかだけ対話をしていると視野はどんどん狭くなってしまうことすら、若いうちにこういう体験ができるることは、とても貴重だし非常に重要なことだと思います。

対話で大事なのは、自分の意見を言って、相手の意見を聞いて、お互いが納得できる解を見出すことです。そしてもう一つ、「地域みらい留学」ですごくいいなと思ったのが、自分が学んでいることがどう社会とつながるかを肌で感じられることです。地域のコミュニケーションや人とかかわりながら学ぶことで、「自分は世の中にどう貢献できるか」という意識が芽生えると思うんです。ビジネスでは、学校で学んできたことがそのまま仕事に活かせるとは少なく、課題解決に必要なスキルや知識をその時々で新しく学んでいきます。一方、学校ではこれまでいい大学に入ることが勉強の目的になっていて、両者の学び方にギャップがありました。高校生が実際の地域の課題に取り組むプロジェクト学習というのは、社会人型の学びなので、実際に社会に出たときにも大いに役立つと思います。

そして、頭も心も柔軟かつ多感な高校時代に、いかに裾野を広げておけるかにかかるっています。異質のものと出会い、対話をし、自分の生き方を考える。私自身は、本から多くのことを学びました。高校時代には本を通して異質のものと出会い、世界が広がりました。その可能性が、地域やコミュニティ、自然といったものにあると確信しています。地域と教育の掛け合わせによる新しいインバウンドが、全国に、そして世界へと波及していくことに、大きな期待を寄せています。

地域みらい留学「ビジョンパートナー」 message from vision partner からの メッセージ

Message from vision partner からの メッセージ

(五十音順・敬称略)

同質を集めて枠にはめる 異質と出会い多様

感じ考

時代は終わり。生のなかでもまれ、れる体験が、人を育てる。

地域で起きていることを自分ごとに捉えて、動く。なんとか解決しようと努力する。そういう大人はカッコいいですね。インクルーシブな社会を実現するための兆しを海士町では感じましたし、何とかしようと頑張っていました。大人に囲まれながら高校3年間を送るカッコいい大人には素晴らしい環境だと感じました。

同質性でくつとお互いを批判するのではなく、互いに違いを理解して受け入れ、多様性のなかで揉まれながら、いろんなことをを感じ、考え方・価値観を形成していく。まさに、海士町は人生の縮図体験とも言えると思います。そう考えると、都会の学校はなんでもそろっているように見え、実は、大人が選んだものだけが集められた環境なのかもしれません。

今後、地域みらい留学の動きがさらに拡大して、中学生にとって当たり前の選択肢になること願っています。どのくらいにどういう助けを出せば人は変化するか、選んだものだけが集められた環境なのかもしれません。

なく高校3年間は大きい。人生を変えうる時期です。その時期にある子どもたちが、学業成績という物差しだけで自分を測るのではなく、探究型の学びや経験を通して自らの強みや特性を発見する3年間を過ごすこと、とても価値のあることだと思います。

地域みらい留学の次の目標は、卒業生をどうつかい、自分の道を見出す。そういうことができればさらに良くなると思います。



ビジョンパートナー
安済 聖司 様

アクサ生命保険株式会社
代表取締役社長 菅 250

早稲田大学政経学部卒、ハーバードビジネススクールMBA。三菱商事、リップルウッド・ジャパン、UBS証券を経て、2007年GEコマーシャル・ファイナンス・ジャパン社長兼CEOに就任。2009年、GEキャピタル・ジャパン社長兼CEOに就任。2017年ビザ・ワールドワイド・ジャパン代表取締役社長に就任。2019年4月より現職。

A portrait of a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a black turtleneck sweater. He is looking slightly to his right with a thoughtful expression. The background is blurred, showing what appears to be an indoor setting.

名前も知らない。それが良いか悪いかではなく、自分にとって「当たり前」の世界を飛び出すことに、大きな意義があると思します。もう一つ、「地域みらい留学」で面白いいなと思ったのが、地域社会に高校生を巻き込んでいくという在り方です。これまでには高校生と社会人が一緒にになって地域で活動をするという発想も機会もなかった。その背後には、社会を動かすのは大人だ、高校生はまだ子どもだという先入観があつて、無意識に線引きをしていたのだと思います。でもよく考えたら、高校生が混じって一緒に議論したり、いいじやないかと。むしろ、高校生のパワーを使わない手はないですね。このコペルニクス的転回がすごい。これは日本の教育において、大きなチャレンジだと思います。

都会も田舎も両方とも日本の姿です。越えて若いうちにどちらも体験しておくというのは、日本の現状を知るという意味でもとても有意義なことだと思います。そしてこれまで守られてきた親のもとを離れ、見知らぬ土地で自分で、生活をするということは、それ自体がとても価値のあることだと思います。「地域みらい留学」というプラットフォームができたことで、越境のハードルは格段に下がっています。高校生で越境ができるって、すごく贅沢なこと。異質との出会いの機会を、ぜひお子さんたちつてあげてほしいと思います。

異質との出会いこそが人を育てる。

理事を務めていたことくらい、毎日かづ名前も知らない。それが良いか悪いか

「共感が生む社会への挑戦」



代表メッセージ

目指す未来

代表理事
岩本 悠

感謝をこめて
理事・会長
水谷 智之

江戸300藩の時代、いま世界が驚く日本の食文化、技能、芸能、そして教育までが藩ごとに自治成立し、進化し、誇れる日本は全国分散で作られてきた時代があった。そして意志ある地方の若者が新しい日本を創ろうと立ち上がった。明治維新、富国強兵、殖産興業、集団就職からいつしか「若者は都会へ」という流れが常識になり、この流れに疑問を持ちついで加速してゆく現代。この先に「豊かな時代」は来るのか?

そんな思いから“地域みらい留学”を始めやっと3年。

社会に風穴を開けられるところまでは、未だいませんが、想定以上の追い風を感じ始めています。

確かに既存の壁は高いけれど、想像以上の共感と応援をいただける驚きがこの事業のエンジンとなっていることを実感しています。

コロナ禍の中、我々もこの流れを止めてはいけないと、必死の一年になりました。

そして、なんとか流れを止めない今期の地域みらい留学になったのではと思っています。

この陰に、全国25道県・68校の方々の必死の想い、共感いただいた方々の資金やボランティア含めた事業運営メンバー50名超のパワーがこの事業の原動力になっています。

改めて感謝を申し上げるとともに、このレベルにとどまらない事を御誓い申し上げます。

最後に、この一年を通じて、本事業のようなビジネスモデルが成立しにくい社会課題領域において、共感支援のエネルギーが大きな社会成果を生む、まさに共感経済モデルの可能性を強く感じています。

是非皆さんと、若者や地域の未来をというだけでなく、新しい共感エネルギーが社会を作る価値ある挑戦を続けさせていただければと思っております。

意志ある若者が育つ魅力ある教育環境を展開し、持続可能な地域・社会をつくる。私たちは、その「かけがえのない一助」となる。

私たちは小さく儚い存在でも、社会を大きく変えていく。この上なく大切な価値を共創するものであります。この時に、この存在なしには生まれなかつた意志ある未来を私たちはつくっていきたい。

誰もが越境でき、多様な子どもたちが幸せに学びあえる社会に開かれつながる教育環境。

つくりたい未来に向け、いきいきと挑戦している若者たち。

子どもたちが憧れるかっこいい大人にあふれ人の還流が生まれている地域。

持続可能な社会づくりを牽引し、「ソーシャルイノベーションの輸出大国」「課題解決先進国NIPPON」と呼ばれている日本。

そんな未来をつくるかけがえのない一助となりたい。そんな未来を皆さんと共に創りたい。

今まで本当にありがとうございます。そして、これからも。未来へともに。

「メンバ」からのメッセージ

ビジョンの実現に向けて
共に働くメンバーから、
地域みらい留学やしまね事業に向けて
「こんな未来をつくりたい」
「こういう社会をつくりたい」を
集めてみました。

学校の先生だけでなく、様々な人達が、多様な経験や専門性、そして高い志をもって教育に参画できる社会。いろんな大人が寄つて集つて子どもたちをサポートしていく社会にならざるといいな!

地域みらい事業責任者



事務局長

地域みらい事業責任者

自分たちの地域や社会の「未来は創れる」と信じ、自ら挑戦できる若者・大人に溢れる地域・日本をみんなと一緒に創れたらいいなと思っています!

生徒も先生も、また地域のおじいちゃんやおばあちゃん、行政やNPOや企業や保護者さんや卒業生たちも、みんなで一緒に「教育の未来」を語れる、そんな社会を目指したい。

どんな環境に生まれ育つても、未来は創れると思えます。一人ひとりが持った多様な個性を容し育みあえる地域・社会を島根から全国に広げていきた。

自分の未来は変えられる。自分たちの未来は変えられる。おもいっきりやろう。そう、心から開くこと、仲間と共に一步踏み出せること。そんなことができる地域・教育を島根から! あるけれど、誰もがそうなる未来があると信じています。



事務局

地域みらい事業部



しまね事業部

ひとづくり事業



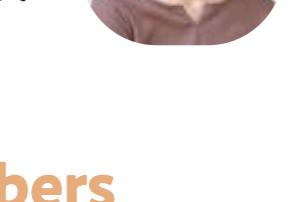
事務局

地域みらい事業部



事務局

地域みらい事業部



事務局

地域みらい事業部

自分たちの地域や社会の「未来は創れる」と信じ、自ら挑戦できる若者・大人に溢れる地域・日本をみんなと一緒に創れたらいいなと思っています!

生徒も先生も、また地域のおじいちゃんやおばあちゃん、行政やNPOや企業や保護者さんや卒業生たちも、みんなで一緒に「教育の未来」を語れる、そんな社会を目指したい。

どんな環境に生まれ育つても、未来は創れると思えます。一人ひとりが持った多様な個性を容し育みあえる地域・社会を島根から全国に広げていきた。

自分の未来は変えられる。自分たちの未来は変えられる。おもいっきりやろう。そう、心から開くこと、仲間と共に歩み出せること。そんなことができる地域・教育を島根から! あるけれど、誰もがそうなる未来があると信じています。



事務局

地域みらい事業部



事務局

地域みらい事業部



事務局

地域みらい事業部



事務局

地域みらい事業部

Message from Members

この他にも全国各地にいる70人以上のパートナーと共に、つくりたい社会・目指す未来に向けて挑戦しています。

2019年度決算報告 (活動計算書 2019年4月1日～2020年3月31日)

一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム	
活動計算書 2019年4月1日から2020年3月31日まで	
科 目	(単位:円) 金 額
I 経常収益	
1. 受取寄付金	55,379,500
2. 受取助成金	101,461,627
3. 事業収益	67,061,056
4. その他収益 受取利息 金収入	209 984,396
経常収益計	224,886,788
II 経常費用	
1. 事業費 (1)人件費 役員報酬 給料手当 報給 法定福利費 人件費計	6,960,723 27,083,643 3,648,809 4,447,993 42,141,168
(2)その他経費 業務委託 荷造運賃 広告宣伝費 交際費 会議費 旅費交通費 通信費 消耗品費 水道光熱費 支払手数料 地代家賃 租税公課 支払報酬料 保険料 印刷製本費 その他経費計	35,302,778 345,661 11,775,109 324,388 14,862,329 13,261,014 632,545 2,665,733 520,938 42,923 2,022,915 10,000 11,000 8,160 410,976 82,196,469
事業費計	82,196,469
2. 管理費 (1)人件費 役員報酬 給料手当 報給 法定福利費 福利厚生費 人件費計	799,281 3,109,939 98,824 510,750 63,130 4,581,924
(2)その他経費 業務委託 荷造運賃 広告宣伝費 交際費 会議費 旅費交通費 通信費 消耗品費 修繕費 水道光熱費 支払手数料 地代家賃 租税公課 支払報酬料 減価償却費 研修費 その他経費計	1,589,902 35,858 660,000 197,169 233,006 5,407,820 828,715 1,615,281 132,000 59,818 591,048 232,285 8,000 884,573 392,944 40,000 12,908,419 17,490,343 141,827,980
管理費計	109,636
経常費用計 固定資産売却益 経常外収益 税引前当期純利益 法人税等 当期正味財産増減額 前期繰越正味財産額 次期繰越正味財産額	109,636 109,636 83,168,444 81,000 83,087,444 △ 281,902 82,805,542
II 経常外収益	

地域みらい留学
10,000人支援委員会
マンスリーサポーター
寄付で応援!

あなたのご支援が あの子の笑顔を
地域のみらいをつくります。



財務会計報告書 (貸借対照表 2019年4月1日～2020年3月31日)

一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム	
貸借対照表 2020年3月31日	
科 目	(単位:円) 金 額
I 資産部	
1. 流動資産 現金預金 売掛金 貯蔵品 前払費用 流動資産合計	74,994,723 23,252,199 264,564 2,294,600 100,806,086
2. 固定資産 (1)有形固定資産 工具器具備品 有形固定資産合計	620,057 620,057 1,129,800 1,129,800 1,749,857
投資その他の資産 投資その他の資産計	
固定資産合計 資産合計	102,555,943
II 負債の部	
1. 流動負債 役員借入金 前受金 未払金 未払金(法人税等) 預り金 流動負債合計	5,000,000 520,000 13,494,338 81,000 655,063 19,750,401
負債合計	19,750,401
III 正味財産の部 前期繰越正味財産 当期正味財産増減額 正味財産合計	△ 281,902 83,087,444 82,805,542
負債及び正味財産合計	102,555,943

*2017年度、2018年度の決算報告についてはCANPANを参照ください。
<https://fields.canpan.info/organization/detail/141315516#finances>



(一財) 地域・教育魅力化プラットフォーム

■役員

理事・会長 水谷 智之
代表理事 岩本 悠
共同代表 今村 久美

■評議員

太田 直樹(総務省政策アドバイザー)
鈴木 寛(前文部科学大臣補佐官)
新田 英夫(島根県教育委員会 教育長)
大江 和彦(海士町長)

■監事

利弘 健(公認会計士・税理士)

■アドバイザリーボード

小泉 進次郎氏(衆議院議員)
須藤 修氏(東京大学教授)
錦織 良成氏(映画監督)
丸山 達也氏(島根県知事)
宮脇 和秀氏(島根経済同友会終身特別幹事)(2020年8月17日現在)

■スタッフ(15名)

地域みらい事業・しまね事業・コーポレート事業(事務局)

■パートナー(約70名)

■会費・寄付者(2020年3月現在)

マンスリーサポーター 198名
都度寄付 43名
ビジョンパートナー 5名

■ご支援いただいた助成団体

・日本財団ソーシャルイノベーター支援事業(2016年～2019年)
「学校を核とした地方創生のスケールアウト」
・トヨタ財団 国内助成プログラム「そだてる助成」(2020年度)
「島根県の卒業生が地元に関わり続けられる“みらいカレッジ”の構築」

■受賞歴

・日本財団ソーシャルイノベーター支援制度2016
最優秀賞獲得(2016年)
・一般財団法人日本ファッショング協会
日本クリエイション大賞 教育文化貢献賞(2018年)
・共同通信社の他全国の地方紙46紙
第10回地域再生大賞 記念賞

ご支援・ご協力いただいた多くの皆様に感謝申し上げます。

実践型探究学習プログラム「マイプロジェクト」

新学習指導要領では、探究的な学びの重要性が指摘されており、何を学ぶかに加えて、学びのプロセスが主体的・対話的・深い学びになることが重要であるとされている。実践型探究学習プログラム「マイプロジェクト」は認定NPO法人カタリバが提唱し、全国に普及を図っている。マイプロジェクトとは、身の回りの課題や関心をテーマにプロジェクトを立ち上げ、実行することを通して学ぶ、実践型探究学習プログラム。大切にしているのは、小さくても実際に起こす「アクション」と、プロジェクトに対する「主体性」。不確かな時代だからこそ、高校時代に正解のない問題に向き合い探究することで、未来への創造力が引き出される。そう信じて、マイプロジェクトを日本全国の高校生に広げる取り組みを行っている。

2019年には、全国から2654プロジェクト、8765名の高校生が参加し、まもなく1万人の高校生が参加する取り組みとなっている。現在、マイプロジェクト事務局では、各地域や学校で探究学習やマイプロジェクトの導入を高校・行政・教育関係者などの伴走者向けに、サポートを行っている。



2017年度「全国高校生マイプロジェクトアワード」は地域・教育魅力化プラットフォームと認定NPO法人カタリバが共催で開催

海外展開推進事業

文部科学省「日本型教育の海外展開推進事業(EDU-Port ニッポン)」に採択。島根県をはじめ全国に広がる「学校を核とした地域創生(学校魅力化プロジェクト)」をブータンで展開し、学校と地域の協働による「地域の次代を担う人づくり」を推進した。

地域を越えた共学共創の取り組み(2018年～)

各地の高校魅力化が持続的に進化・展開していくためには、お互いが学び合い、触発し合い、新たな価値を共に創っていくつながりが重要。学校教職員や自治体、県教育委員会対象の共に学び、共に創る「共学共創」の機会を提供している。

■主な活動(共催、運営企画含む)

2017年

- ・社会に開かれた教育フォーラム(6月 東京)
- ・教育魅力化チーム推進プログラム(7月・9月・11月 島根)

2018年

- ・全国高等学校魅力化フォーラム(6月 東京)
- ・県外生徒募集に関するワークショップ(6月 東京)・しまねの教育の日フォーラム(11月 島根)

主催: 島根県教育委員会

- ・共催:(一財)地域・教育魅力化プラットフォーム
- ・ソーシャルイノベーションハイスクール(9月 東京)
主催 日本財団(企画協力)
- ・地域教育・高校魅力化の最前線を学ぶ2 days(11月 島根)
主催: 島根県教育委員会

2019年

- ・共学共創ワークショップ(6月 東京)
- ・令和元年度「地域との協働による高等学校教育改革」全国サミット(10月)
主催: 文部科学省(委託を受けて実施)
- ・全国地域教育魅力化フェスタ2019(11月)
主催: 島根大学地域教育魅力化センター

2020年

- ・令和2年度「地域との協働による高等学校教育改革」全国サミット(10月)
主催: 文部科学省(運営協力)

